

## 「本山寺山森林づくりの会」活動報告(10/3)

文・写真：武田、写真：山 國

日 時：2019(令和元)年 10 月 3 日(木) 9:30～15:00

気 象：曇 のち雨

活動エリア：4 4 林班ろ

活動内容：間伐放置林の林床整備、風倒木などの処理

参加者：泉家恵子、内海宏一、斧田一陽、工藤貴士、倉谷邦雄、小鶴道栄、武田壽夫、中村賢三、  
宮本 廣、山田真也、山 國 計 1 1 名

### <熱中のあまり……>

森林保全作業はいつも危険と隣り合せ、プロの世界でも伐倒木の下敷きになると言った事故は稀ではなく、伐倒時には樹高の二倍は離れるのが原則とされている。こうした安全衛生規則の遵守は勿論だが、そのほか、我々の経験では尾根の上下に分かれて中折れ木や放置木を処理する場合も注意を欠かせない。玉切りした幹は斜面を滑り落ち兼ねず、上下の同時作業は危険この上ないのである。

重々、分ってはいる事だが、鋸を手に動き廻っていると誰も目先の作業に熱中するあまり、注意喚起の呼子は耳に届いていても「もう少しで切れるのに」とか、「足下が剣呑で急には移動出来ないのに」、と言ったことで、移動は緩慢な動きになりがち。こうした下方の動きは上方の作業者からは危なっかしく映る。一方、下では上を見上げては「下の段取りも見えるだろう」となる。上方で伐倒したり玉切りしたりすると幹は撥ね転がり落ちる危険性が大で、あくまで「上下同時作業は厳禁」を心掛けるべし。

この「大原則」はチーム員同士の意志疎通があって初めて励行されるもの。現地で各班が作業範囲や段取りなどを綿密に打ち合わせる事が安全作業のスタート、この点、肝に銘じる由縁である。

### <今日の成果>

尾根上はともかく、東面した斜面は相変わらず斜度がきつく足下が崩れ易い。それでも頑張って一帯の枯損木を整理、玉切り木は土留めの棚積みや作業道の路肩補強に転用。尾根上では、中折れ木を処理。200m×30m=0.6ha の範囲が整備出来た。予報通り三時前から雨が降り出し、少し早めの作業オワリ。

### <季節は進む>

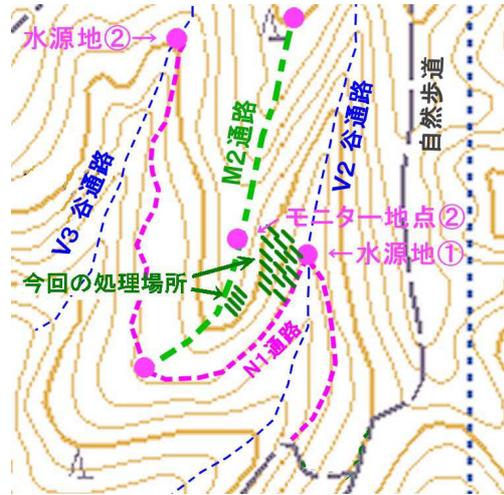
活動地ではヤマアカガエル、天敵はイノシシなど。本山寺境内では手水の龍に守られるようにシュウカイドウが咲いていた。花言葉は「自然を愛す・恋の悩み・片思い……」、これは左右アンバランスな♡型の葉の形に由来。会員の中には縁遠くなった言葉かも。郡上八幡の井上さんから実を結んだムラサキシキブ、ムラサキシキミが訛って紫式部になったそう。光源氏の恋物語。

(本文 終り)

【集合写真・・・朝は晴れだが、午後は下り坂】



【活動地要図】



【活動地を目前に（水源地①の手前）】



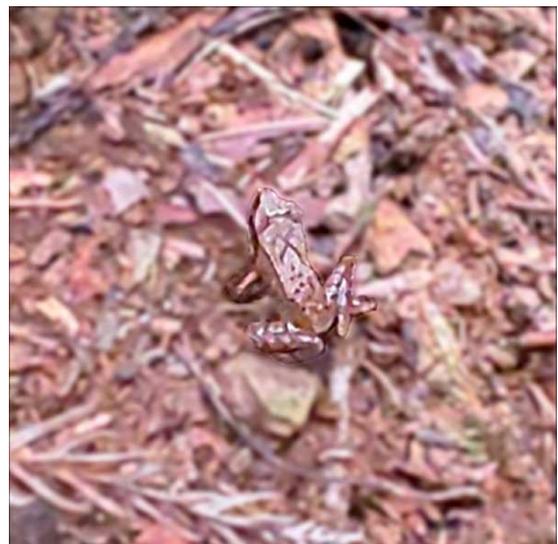
【それでも喰い付く”森林づくり”】



【作業後－スッキリした斜面の林床】



【ヤマアカガエルが御目見え】



【斜面の放置木は土留め or 路肩補強に転用】



【路肩補強用に裁断中】



【手が付かないようだが片付けるのが林床整備】



【何とか土留めの準備を仕上げる】



【手水の龍に抱かれた秋海棠】



【郡上八幡の紫式部】

